

第5回美祢市総合計画審議会 議事録

日時 令和6年11月12日(火)10時00分から11時45分まで

場所 美祢市役所 301会議室

出席者

- ・出席委員17人 進士会長、藤井副会長、山田副会長、倉増委員、杉本委員、中野委員、安富委員、野原委員、水野委員、大内田委員、折田委員、加藤委員、高須委員、松原委員、本山委員、森脇委員、綿谷委員
- ・欠席委員4人 青木委員、坂本委員、竹尾委員、中元委員
- ・事務局 佐々木部長ほか5人

議事内容(要点筆記)

1 開会

事務局により開会～資料確認

2 委嘱状の交付

新委員の紹介

3 会長・副会長の選出

進士委員が会長、藤井委員、山田委員が副会長に選出

進士会長挨拶

4 協議事項

(1) 第二次美祢市総合計画後期基本計画及び第3期美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局より資料1、2について説明

- 会長 「子ども」を平仮名の「こども」に変えているかと思うが、一部「子ども」となっているところがある。
- 事務局 子育て支援施策等では「こども」に直しているが、福祉施策等の具体的な取組で「子ども」という字を使っているところがある。御意見をいただければ統一することは可能である。
- 委員 「子ども」の漢字について、平仮名にするようにという通達があったのだろうか。
- 事務局 こども家庭庁ができたときに文書があるが義務付けではない。
- 副会長 23ページの現状と課題に勤労者福祉施設の部分に「として」とある。ここでの「として」は、主な取組との記載からしても文章として違和感があるので、検討していただければと思う。48ページの目標指標で、UJIターン受入人数の基準値が「-」になっていて、令和7年度がゼロからの出発という意味なのか。ちょっと分からなかったなので、記載方法について、検討していただければと思う。
- 事務局 前段の意見は、修正対応する。UJIターンの受入人数は、前期計画時は、住宅購入

補助の支援を受けた市外の方等を集計していたが、全体の把握ができてない状況だった。そこで令和5年度から、転入者の方にアンケートをさせていただいて、その転入の理由をお聞きしている。9月までの状況は把握できているが、年間分が示せないなので、基準値を「-」で、設定させていただいている。

○副会長 今後基準値に数値が入ってくるのか？

○事務局 他の指標は全て実績値を記載しているが、1年間のうち、まだ9月までの分しかないので、推計値にせざるを得ない。推計値と注記を記載した上での指標の掲載は可能ではある。分かりづらいから推計値を入れた方がいいという御意見であれば入れることは問題ない。

○会長 目標値2,160人というのが、高い目標なのかどうなのかが分かりづらい。

○事務局 推計として書いたほうが分かりやすいというような感触だと思うので、基本的には推計値を記載させていただく方向で準備したいと思う。

○委員 気づきで、4ページの受入環境の整備、7ページの受入れも送り仮名がいるのではないかと思う。66ページの公共施設の適正管理の「廃止施設」という言葉は、休止や閉鎖というような言葉が適切なのかと思う。好みの問題なので回答は不要である。32ページ「美祢のこと」の「こと」は、主旨が「こと」が適切であればそれでいいが、魅力とか誇りとか、何か具体的な文言が入った方が分かりやすいと思う。

○事務局 公用文の表記に沿って作成している。読者目線での意見であり、分かりやすさの観点での御意見は検討したい。

○会長 戦略方針の4デジタル技術を活用したまちづくりは重要で、DX推進員の人材育成研修への参加率の基準値が86.1%で、目標値が95%だが、市内部でできることなので、市として目標は100%にするという覚悟を見せたほうがいいのではないかと思う。

○副会長 先日オーストラリアに行ってきたが、社会全体のデジタル化が進んでいた。国も市もデジタル化、DXを進めざるを得ない。オンライン手続のKPIが設定されているが、現在のどの程度の手続があって、そのうち何パーセントがオンライン化しているのか。また、目標を達成した場合、何パーセント上がるのか。

○事務局 行政手続のオンライン化の割合について、手続の母数が手元にないので回答は後日になる。KPIの件数は、国が推進するマイナンバーを活用した行政手続を基本としている。年に1件しかない手続もデジタル化するかというと費用対効果のこともある。目標値の90件の内容は担当課に確認する。

○委員 4ページの多様な雇用の場づくりで、中高生はなかなか美祢市に魅力がないということで定住につながらないとの話が今までもあったかと思う。職場の近くの小学校が、社会見学に行く機会に保護者の方も一緒に回られたそうで、保護者がこんなすてきな企業がと、発見がたくさんあったそうだ。もう少し、中学生、高校生に美祢市の企業の魅力の発信を、市がバックアップしていただけたらと思う。あと、やはり女性が定住したいと思うまちづくりが大切と思う。うちも子どもも、男の子のほうは、帰ってきて美祢市に定住することになったが、女の子のほうは就職で県外に行ってしまった。自分がしたいと思う職種がこの山口県にないこともある。もう少し子ども一人ひとりに対して、どういったことがやりたいかというようなことも、教育の場で必要ではないかと思う。市もそういった機会をたくさん与えることが定住につながると思う。

○事務局 子どもが出ていって、若い女性が出ていっていることが、人口ビジョンでも、明らかに数値として出ている。子どもが、地元で働きたい仕事があるのか、また選択肢の問題もある。そもそも地元の仕事に魅力を感じられるような場があるのかという御指摘は重要な御意見だと思う。基本計画の23ページで、中高生に対する地元企業等の魅力発信の取組を記

載している。先ほどの意見は、具体的な取組としてどうあるべきかで、実際来てもらうだけではなくて見に行ったり、子供たちが地元の仕事について考える場というものを、基本計画に書くことは難しい。ただし、実際の取組として、勉強だけではなくてキャリアプランとして、どう自分の将来を考えていくか中高生の段階から考えたり、商工でのキャリアガイダンスを各高校で行わせていただいたりとか、中学生の職場体験とか、学校の時間外では公設塾など、美祢市ではそういったカリキュラムの中で将来について考えていく場をできる限り設けている。今頂いた御意見等は担当課等に周知させていただく。

(2) 美祢市人口ビジョンについて

事務局より資料3について説明

- 委員 28 ページの結婚・出産・子育ての希望の実現で、「結婚・産み育てたい！」と強く書かれているが、実際、出産は市外（山口市）に行かないとできない。育てることができても産みたい場所はどうしても市外（山口市）になる。美祢市は、いろんな制度はとっても良く、保健師の訪問の取組も良いが、なかなかここまで書かれている割にはという感じを受けている。
- 事務局 山口県は医師の高齢化率が全国 1 位と人材不足である。また、美祢市内には大学がない関係で大学進学の際には 1 度は外に出てしまう。それをどう取り戻せるかというのが課題。人口問題は美祢市だけの問題ではなく、周りの市町も同じで人の取り合いになっている。
- 委員 美祢市の子育て施策は良いとの評判だが、知らない人もいるので情報発信が重要と思う。子どもを呼び戻す話では、市には看護師の奨学金制度があったと思うが、看護師以外の職種、介護福祉士や保育士などにも奨学金の優遇制度を広げていければ良いと思う。
- 事務局 新しい取組として市内に就職した場合、奨学金の返済支援を始めている。まだ知れ渡っていないと思われるので、制度、施策の発信をしっかりとしていきたい。
- 会長 山口大学は 2,000 人の新入生のうち 500 人ぐらいが山口県内からくる。卒業後は、1,500 人は地元に戻る。できれば、県内の学校から山口大学若しくは県内の大学に進学して欲しい。県からも県内就職をしっかりと欲しいと言われている。県内の企業に勤めたら、借りていた奨学金は返さなくていいという施策は結構あるが、生徒も親も知らないということが多いので、そこをどう知らせていくかは、今すごく大きな課題だと思っている。もう一つ大事なことは、山口県内の高校を出て、県外の大学を卒業した学生が、県内に戻るときの情報がない。そこもすごく大きな問題で、どう知らせるかということもやらなければならないと思う。
- 事務局 29 ページの目標人口は、この資料の軸になる。委員の御意見のとおり、美祢市の課題の 1 番大きなところは、出ていく率も大きいのが、出ていった子どもたちが帰ってこない。また、子育ての段階で出ていってしまうので、そういったところをとり戻さなければならない。その前提で 29 ページの仮定では、そういった世代の移動率を抑制している。実際入ってくる人よりも出て行く人のほうが多いので、マイナスの移動で推計されている。特に子育て世代や大学進学、就職を機に一旦美祢市から出ていった人たちを取戻していきたいといった意味で、移動率を抑制という形で考えさせていただいている。そういったところに力を入れていくことで、この 1 万人を維持していきたいと考えている。一方で出生率を上げていく目標に対して人口が維持されないと感じる方もいると思う。どうしても今の子ども世代が少ないことから 20 年後、40 年後、今の子どもたちが子育て世代になった頃に出生率を上げて母数が少ないためである。ただこういった取組を続けていくと、40 年より先の人口の維持にはつながっていくことになる。この当たりをイメージして移動率抑制という表現をしている。
- 会長 この抑制するためにどういう魅力を美祢市に持たせるかということを議論していかな

いといけない。そうなるための魅力が美祢にないと抑制できないと思う。こういうものが美祢にあるから、外へ出ないでここにいたいとか、ここに戻りたいというものをいろいろ議論していく中で、将来も残りたいという人を増やしていかないと抑制にもつながらない。将来1万人の人口になっても、市として機能して、市民が幸せに生活できるような仕組みをつくることも議論していかないといけない。これぐらいの規模で、これぐらいの中でゆったり生活することが、決して悪いものではないと示すというのも考え方だと思う。

- 委員 山口大学に通う子どもも、魅力がない、働く場所がないという話で県外に出ていく予定で、PRや小さい頃からの職業体験など継続的な取組は必要と思う。県内の魅力的な企業はあるが知られていない。下の子は福岡の方に進学したが、県の取組と思うが就職フェアの案内がきた。大学と県が連携しているとのことだが、美祢でも同じようなことができないか。
- 会長 大学もキャリア教育に力をいれている。1年生から将来を考えさせている。毎年jobフェアを実施し、仕事を知ることが県内企業に協力して実施している。親に手紙を出すことは一つのアイデアと思う。
- 委員 少子化は全国的な問題であるが、まずは教育が大切。そして、美祢市でも様々な体験をさせている。数値ばかりを追うのではなく、今子育てをする人たちがどうしたらいいかという声を聴き、行政任せではなく、どうしたら、子どもたちが市内に就職する、親の職を継ぐということを、生活の中でどのように子どもたちを教育していくということも重要ではないかと思う。

(3) その他

事務局より資料4のスケジュールについて説明。

次回の会議：令和6年12月19日（木） 14時00分～

5 閉会